

御 礼

笹島 良雄 会員

私事、母「しげ」は5月18日15時に肺炎により永眠致しました。年齢98歳、正に天寿を全うしました。葬儀に際しましては、東ロータリークラブ始め会員の皆様には多大なる厚志を賜り感謝にたえません。厚く御礼を申し上げます。

又、国際ロータリー第2640地区北中ガバナー様、久保ガバナーエレクト様他多くの役員の方々より多大の弔意を賜り感謝、そしてロータリーの友情を心うれしく思っています。皆様方に衷心より感謝と御礼を申し上げます。有難う御座いました。



ありがとうございました

松岡 晋さん 大変御世話になりました。(堺西R.C.会長)

山本 進三さん 山本さま本日の卓話よろしくお願ひ致します。

中山 恒夫さん 一人息子がやっと結婚致しました。

乾 敦雄さん 山本様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

笹島 良雄さん 母葬儀の節は大変なる厚情を賜り有難う御座いました。厚く御礼を申し上げます。

阪神タイガース応援団一同

角谷 芳伸さん 内畑さん、田原さんI.D.M.お世話になりました。

〔お誕生日お祝い〕

谷口 文利さん お祝いありがとうございます。

瀧川 嘉彦さん うれしい事がありました。

後 亮 さん 41歳になりました。60歳になっても息子は19歳。先のことを考えると怖いです(笑)。

島 公造さん 山本様、本日の卓話ありがとうございます。

本日の累計 61,500円(計10名 11件)(お誕生日お祝い 534,240円 皆出席表彰 75,000円 その他 2,078,259円 累計額 2,687,499円)

お誕生日お祝い

後 亮 会員

41歳になりました。子供のためにも体調管理を万全に頑張りたいと思います。

谷口 文利 会員

還暦を迎えたと思ったら、あっというまに62歳になってしまいました。



おめでとうございます!

本日の例会 5月30日(木)

●卓話「第70回国民体育大会(きのくに和歌山国体)開催について」和歌山県総務企画課 課長 稲葉 信さん

●ピアノ演奏 中井 利枝さん  
風によせて(アンドレ・ギャニオン)  
シネマのように(アンドレ・ギャニオン)

次回の例会 6月6日(木)

●クラブフォーラム「I.D.M.年間報告」

前回の例会 5月23日(木)

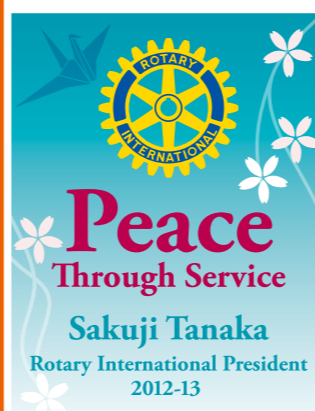
●卓話「和歌山市動物園について」和歌山市まちづくり局まちおこし部和歌山城整備企画課 課長 山本 勝久さん

●ロータリーソング 山東 勝彦 ソング委員長  
「日も風も星も」

●ビジター報告 檜畑 友洋 親睦委員長  
堺西R.C. 松岡 晋 さん

メイキャップ情報 (敬称略)

5月24日(金) 和歌山南R.C. 黒田 純一、山東 勝彦、松田 弘治



「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 和歌山東ロータリークラブ URL http://www.werc.jp E-mail info@werc.jp

2013年5月30日(木)

週報 / VOL.54 No.44(通巻2590)

会長報告

島 公造 会長



皆さんこんにちは。堺西クラブの松岡晋さん本日は我が東クラブによろそ有り難うございます。先週は韓国から中国チンタオへ出張、例会は休ませていただきました。岸裏副会長有り難うございました。日曜日は地区協議会がゲートタワーホテルであり、我がクラブは担当者全員出席、皆様ご苦勞様でした。月曜日はI.D.M.。水曜日は朝7時より伊賀上野へビジネスで日帰りバタバタ。その間政治は橋本市長が変な発言騒動、そのため維新の会の人気急ダウ、みんなの党との選挙協力も白紙、政治家たるもの簡単に考えの無い言葉を使う事は国際問題に発展します気をつけてもらわないと。一番大事なアメリカにまで文句言われて、信用を無くして、それで無くとも中国、韓国と少しギンギンしているのにしっかり他の政治家がホローして下さい。

幹事報告

山本 進三 幹事



例会会場についての意識調査として、アンケートをお配りしております。期日までに提出していただきますようお願い致します。

- すでに役所関係では始まっておりますが、当クラブでも6月よりクールビズでの出席を可能と致しますので、ご報告しておきます。
- 下記のお知らせ・案内が来ましたので回覧します。

国際ロータリー日本事務局より、事務所移転のご案内

梅田芸術劇場より、Wien Musical Concert II

特別観賞のご案内 (S席11,500円 → 7,500円に)

ご挨拶

堺西ロータリークラブ 松岡 晋 会長



和歌山東R.C.さんとは、2003~2004年から国際奉仕のWCSでカンボジアのスナーダイクマエ孤児院の支援について、野井さんを始めとしていろいろ教えて頂き10年になりました。感謝申し上げます。しかし、今在籍会員は16名で、病欠もあり14名です。例会場を事務局に変更し、毎回出席者は5名、7名という中で、例会を開催しています。その様な状態で地区の行事に参加するには組織が小さすぎて身動きが取れない状態であり、6月30日をもって解散することになりましたことを、今までお世話になった皆さんにお詫びとご報告に参りました。今迄ありがとうございます。

出席報告 会員数 43名(内出席規定適用免除会員16名) 山東 勝彦 出席委員長

5月23日(本 日) 20名 62.5% 5月 9日(メーキャップ後) 30名 88.2%

皆さん、出席してください。

## 卓話 「和歌山公園動物園の概要」

和歌山市まちづくり局まちおこし部和歌山城整備企画課 課長 **山本 勝久さん**



和歌山公園動物園は、大正4年(1915年)4月7日に開園しました。これは、日本では、上野動物園、京都東山動物園、天王寺動物園に次ぐものであり、日本で4番目に古い動物園です。

動物園開園の前年大正3年(1914年)に、それまでの和歌山公園を市立公園にするため、当時の内務省から、現在の公園全域が和歌山市へ6万円で払い下げられました。以降和歌山市では、市民の遊楽に供するため、和歌山公園の整備に着手し、設計案を東京帝国農科大学の教授である本多清六氏に作成してもらい、5カ年をかけて公園全域を整備しました。お城の南ノ丸に作られた動物園は、その整備の一番に行われたこととなります。

以後、動物園は市民の皆様から55年に渡り愛され、運営してはいましたが、高度経済成長による発展や、国民体育大会の開催を背に、昭和42年(1967年)に和歌山公園の全体整備計画として、公園全域を大改造することとなり、ここで初めて現在の和歌山公園動物園の案が出されました。

この整備に係る設計は、南海電気鉄道の岩井覚一氏に委託され、文化庁との協議を経て、ほ乳類を中心に飼育している「童話園」と、水鳥を中心に飼育している「水禽園」という、二つのエリアに分かれた施設とすることになりました。童話園には、おとぎ話やイソップ童話を壁画で表現し、収容動物も子どもたちに親しまれるように、水禽園には、城と城郭を象徴し、水鳥を教育する庭園式と呼ばれる手法を取り入れ、史跡環境の保全に努める、という思いがそれぞれ込められています。

これらの整備工事は昭和45年(1970年)5月に完成し、同月5日の子どもの日に、めでたくリニューアルオープンを向かえ、華々しく開催された開園式では、鯉のぼりの掲揚や、くす玉割り、風船あげ等、子どもたちと共に開催を祝えるような趣向を盛り込み、楽しい式典となった様子が、当時の写真から伺えます。当時の童話園には、キツネ、タヌキ、ハナシカ、ロバ、ヤギ、クジャク、カンガルー、サル、アシカ等が飼育され、水禽園では、紀州徳川の時代に、和歌山城の鶴の溪で鶴が飼われていたことになぞらえ、オオツルやカンムリツル等を中心に飼育する等、洋の東西を問わず、絵本の中に入り込んだような気分を味わえたといえます。

こうして市民の皆様に親しまれるようになった当動物園は、現在ほ乳類、水鳥合わせて110点の動物を飼育しており、飼育する動物も当時から移り変わり、アメリカビーバーや、ペンギン、他所からご寄附いただいたミニチュアホースを初め、昭和47年に受け入れたアメリカクロクマのメリカを筆頭に、ツキノワグマのマック、ツキノワグマのベニーと引き続いて飼育されているクマが人気を博しております。特にツキノワグマのベニーの冬眠と冬眠からの目覚めのニュースは毎年たくさんの新聞社やテレビ局で報道され、和歌山市の季節を告げる風物詩となりました。また、全国でも珍しいお城にある無料の動物園として、雑誌等各所で紹介され、毎年約5万人の方が訪れております。

運営面としては、飼育や清掃業務を外部に委託し、その委託料、修繕費、光熱水費、動物の飼料や治療費等合わせて、平成23年度決算で約6,500万円を支出しております。この支出額のうち、主なものとしては、飼育等業務の委託料約3,100万円や、飼料費約1,000万円があり、生き物が相手なので当然ですが、年中無休で午前9時から午後5時まで営業していることによる、実質人件費にあたる部分が委託料のほとんどを占めています。また、歳入として、平成23年度から「動物園サポーター制度」を開始し、広く皆様から寄附金を募り、動物園に対する愛着、理解を深めていただくとともに、市民、来園者の皆様と一体となって、動物園の活性化を図っております。いただいた寄附金は、動物の餌代や施設の修繕等の経費として利用し、サポーターになっていただいた方には、サポーター限定イベントへの招待や、動物の缶バッジのプレゼント、サポーターになっていただいた団体には、ネームプレートの園内展示と天守閣への優待入場券の贈呈を行っております。初年度から278人の方と、12の団体がサポーターになっていただき、481,624円のご寄附を賜り、活用させていただきました。

また、前述のサポーター限定イベント以外にも、動物園ではイベントを実施しており、5月5日の子どもの日、秋の行楽時期には、市民ボランティアの方々も協力し、動物ガイドや、動物に関する絵本の読聞かせ、動物に関する体験学習等を行っており、市民とともに盛り上げる企画が続けられていることは、大変誇らしいことだと思います。

当動物園は、特に幼稚園や保育園に通う子どもたちに人気があり、市の中心に位置し、入園が無料ということもあって、週末の親子連れや、遠足等に多く利用されています。毎年開催している和歌山公園写生大会でも、小学生未満のお子さんからの応募は、お城の絵以上に動物園の絵が多く、思い思いの表現で、動物たちと遊んだり、ふれあったりしている絵を届けてくれます。夏休みには、「子ども飼育体験」として、市報を見て応募してくれた子どもたち、に動物園で楽しく動物とふれあい、生き物と接する難しさを学んでもらうことで、夏の日思い出作りの一役となっております。

これらの事業を初め、和歌山公園動物園は、市民の皆様と一体となった運営を推進しており、動物園開園100周年を迎える平成27年(2015年)にも、市民ボランティアや、NPOの協力団体と連携をとり、和歌山城及び動物園の活性化に向け、尽力しております。

動物園舎に素敵なイラストを描いていただく等、行政の目線だけでは気付かないポイントに独自のアイディアを盛り込み、市民から活性化のための案を発信し、それを協働することのできる動物園というのは、なかなかないのではないでしょうか。

一点難しいことがあるとすれば、開園から約100年、リニューアルから約45年が経とうという中で、どうしても、フェンス等で老朽化している部分があり、修繕が追いついていない現実があります。

100周年という節目に、ハード、ソフト共に、動物園を整備し、これからも、市民の皆様と作る和歌山公園動物園を継続できるよう努めることが、我々の最大の課題であり、責務であると考えており、この思いを発信する機会を設けていただいたことに、心からお礼申し上げます。